



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 24 年 7 月 25 日(水)
トヨタ財団贈呈式参加 編

いざという時にはふだんしていることしかできない(場合によっては半分もできないこともあり得る)。これは防災のセオリーのひとつですが、それは被災した側だけでなく、支援する側にもいえることです。また、支援の基本は「餅は餅屋」。得意なことを得意な人がする。そのコラボレーションとコーディネートで成果と支援の輪は広がります。

木材というモノだけでなく、地域の人材やつながり、技術を使って地域づくりをする。秋田で続けている活動が、先の長い岩手県大槌町の復興まちづくりに役立てていただけないかと考えています。

町役場で何度かご相談をさせていただくと、復旧・復興の予算は使途が決まっています。新たなことへの支出は難しいこと、もし予算が使えたとしても各課との調整、議会への承認などで時間を要することなどがわかりました。日本中の市町村から職員派遣をお願いしながら平時の何倍もの業務をされている現状を考えれば、支援をする際はなるべく被災地の負担が少ないことが重要です。

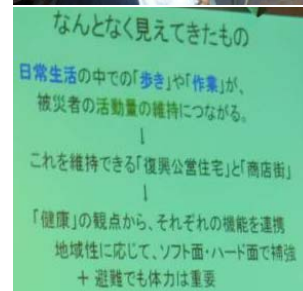
自前の資金がなければ、市民団体ならイベント時に物販をして稼ぐことも可能ですが、研究者には即売できるものはありませんので、研究費獲得の基本-公募中の外部のファンドに申請書を作って応募する-しかありません。震災以降、多くの財団や省庁が被災地支援の活動や研究に対して助成募集をしていますが、申請できる内容や助成金をいただけるタイミングなどから、4月にトヨタ財団の『2012年度東日本大震災対応 研究助成プログラム「特定課題」政策提言助成』に応募しました。

その結果、1年間研究費をいただけることになり、7月25日に遠野市のあえりあ遠野で開催された贈呈式に参加してきました。

申請書には「本研究は東日本大震災被災地の復旧と地域再生を進捗させるために、岩手県大槌町において実証研究を行う。」と書きました。これまでの研究や活動の方法・成果を被災地でどのように具体化していくか。色々なかたちで all 秋田 の支援へとつなげて行きたいと考えています。

文： 渡辺 千明

トヨタ財団の HP : <http://www.toyotafound.or.jp/>



トヨタ財団常務理事の伊藤博士氏より岩手会場参加者 7 名に贈呈書が授与され、その後、各助成プロジェクトの紹介が行われました(上)。
日本地理学会被災地再建研究グループのテーマは、高齢化社会の日常への適用も期待できそうな内容でした(下)。



研究プロジェクトには実行チーム名をつけないければならず、木材の活用技術を広めていきたいという思いを込めて Wood-TET (Wood Technology Extension Team)としました。少し舌をかみそうです。



1時間半余りの交流会が開催され、お世話になる事務局の方や岩手県内で活動されている方々と情報交換をしました。この先、色々な場面で一緒に活動することができれば、もっと豊かな被災地支援ができるのではないかと感じました。